

1 渡辺 竜彦 議員（志政会）

（1）坂井市の災害対策計画について

- ・災害時における災害ごみなどの対応について、環境省は指針で災害ごみの仮置き場の候補地や必要面積、大規模災害時の対応などを盛り込む「災害廃棄物処理計画」の策定を自治体に求めているが、本市はどのようになっているのか。
- ・9月の北海道胆振東部地震の時のように、大規模な「ブラックアウト」が発生した場合を想定しての対策計画は策定されているのか。
- ・坂井市は、台風など風水害被害に備えた事前防災行動計画「タイムライン」は策定しているのか。

2 戸板 進 議員（志政会）

（1）本庁舎およびJ R丸岡駅を中心とした都市計画について

- ・都市計画マスタープランでは、J R丸岡駅周辺の整備について、鉄道利用の利便性を高めるため、駅前広場の拡張、パークアンドライド駐車場や駐輪場の確保、J R丸岡駅前線の整備、西側からの自由道路の整備など総合的に整備し、交通結節機能高めるとされている。また、駅直近部の利便性を活かして、駅西側で良好な居住環境の整備を検討するとされている。これまでの経過および現状は。
- ・市の新たな総合計画が策定されると、都市計画マスタープランも変更されることになるのか。
- ・市内高校での議会報告会で、通学の交通手段の不便さを訴える生徒がいる。朝、夕の通学時間帯に、三国高校、丸岡高校方面へ、スクールバスを兼ねたコミュニティバスの運行はできないか。

3 古屋 信二 議員（志政会）

（1）水田農業施策の充実について

- ・米の消費拡大条例制定後のごはん食推進内容および目的達成度はどう受け止めるのか。
- ・水田フル活用への支援見直しについて、2年3作を基本とした転作作物の市助成の見直しが必要ではないか。
- ・丸岡産在来そばについて、地理的表示保護制度（G I）を利用したブランド戦略で高付加価値をつけられないか。
- ・そばの小畝立播種技術を利用した作付面積の拡大、安定収量の確保に向けた推進を。
- ・もち麦の需要拡大によるファイバースノウからもち麦（はねうまもち）の作柄切り替えが市全体で取り組めないか。
- ・中山間地など耕作困難地の担い手対策に、特別な支援がいるのではないか。

4 山田 秀樹 議員（志政会）

（1）情報弱者の救済について

- ・過去5年間の防災メールの登録者数の推移とその結果の所見を伺う。
- ・市が考える情報弱者の定義を伺う。
- ・現在の情報格差についての所見を伺う。
- ・情報格差解消に向けての所見を伺う。
- ・携帯ショップへ出向けば防災メール受信設定が完了できるよう、行政とショップで連携を取れないか。

5 後藤 寿和 議員（志政会）

（1）ICT教育について

- ・市内の小中学校における電子黒板やタブレット導入の現在の状況は。
- ・今後の市内小中学校におけるICT教育の進め方は、どのように考えているのか。
- ・今後、市内小中学校にICT機器を導入する予定はあるのか。
- ・校内の有線・無線LANの整備は進んでいるのか。
- ・プログラミング教育について、市はどのように考えているのか。
- ・プログラミング教育を今後どのように進めていくのか。

（2）中学生や高校生の若い世代の居場所づくり

- ・市内に音楽室のようなスタジオを整備して、楽器を趣味にしている子ども達でも簡単に音楽に携われる環境をつくってはどうか。
- ・市内の公園や公共施設などで、スケートボードの練習コースやバスケットボールのゴールを設置するなどしてはどうか。
- ・ポップカルチャーやサブカルチャーに携わっている若者に、市としてもバックアップ体制等つくることはできるのか。

6 川畑 孝治 議員（政友会）

（1）ふくい嶺北連携中枢都市圏について

- ・ふくい嶺北連携中枢都市圏における坂井市の位置付けは。
- ・期待できることは。
- ・財政負担は。
- ・メリット・デメリットは。

（2）がん対策推進条例を制定しては

- ・がん対策を総合的に推進することを目的にがん対策推進条例を制定しては。

7 近藤 哲行 議員（政立会）

（1）空き家対策と観光客

- ・空き家を改装し売却する。または店舗などに改善する。その他にもあるのか。
- ・三国港のそばに、観光客のために港や夕日が見える屋根付きガラス張りの停留所を作ってはいかがか。

8 南川 直人 議員（志政会）

- (1) 「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(歴史まちづくり法)」を活用したまちづくり
- ・平成28年第6回定例会の答弁で歴史文化基本構想の策定があり、文化財を活かしたまちづくりへの活用、と言及されている。文化庁の組織としても、文化財部に文化資源活用課があり、不動産である文化資源の活用に関する事などを担っている。また全国で歴史文化基本構想策定のもと、観光施策や地域づくりにおいて文化財に着目し、積極的に活用しようとする動きもある。市の歴史文化基本構想策定の現状はどうか。
 - ・今後の市の歴史的風致の維持及び向上のための施策に、都市計画や景観計画と共に「歴史的風致維持向上計画」は大変有効であると考えている。認定されれば国からの支援が得やすくなると聞いている。市の取り組みはどうか。
 - ・歴史まちづくり法の認定は、文部科学省、農林水産省、国土交通省の共管であり、市としてこれらの施策を進めるうえで、担当部署は多岐にわたる。計画が認定されている松江市や長浜市などでも行われている、教育委員会の担当課と市長部局の担当課の統合はできないか。

9 吉川 貞明 議員（政友会）

- (1) 集落営農組織の振興策などについて
- ・集落営農組織などに対する施策の現状と、今後の市政の展開や方針などについて、理事者の見解を伺う。
 - ・高齢者に対する農業支援をどのように行うか。
 - ・農地中間管理機構に関する坂井市の現状はどうなっているか。
- (2) 空き地の有効な活用策などについて
- ・空き地の有効な活用策の提案について、理事者の見解を伺う。

10 上坂 健司 議員（政和会）

- (1) 地域ぐるみの防災体制づくりについて
- ・自主防災組織を取り巻く現状はどうか。
 - ・近隣他市と比べ自主防災組織率が低いと見受けられることについて、結成率の向上に向けてどう取り組んでいくのか。
 - ・自主防災組織の活動の活性化に向けて、自主防災組織の役割はますます重要となってくるが、組織の活動を促進していくうえでさまざまな課題に直面している中、今後、地方自治体は支援を行う必要があると考える。どのような支援策が考えられ、今後、市として自主防災組織に対してどのような支援を行っていくのか。
 - ・市民全体の防災意識を高めるため学校防災（防災教育）も重要であると考えているがどうか。
 - ・自主防災組織の情報共有などを行うため、広域的な組織づくりはどうか。

1 1 橋本 充雄 議員（志政会）

(1) 本年度の雪対策について

- ・ 県の今年度の雪対策は①主要幹線道路の雪対策強化②関係機関との連携強化③事前排雪、集中除雪体制の強化④昼夜間除雪の実施、最重点除雪路線の見直し⑤情報発信の強化の5項目である。市の今年度の除雪計画の重要施策は何か。
- ・ 除雪車にGPSを搭載し、除雪状況を把握し、除雪車の適切な配置や市民へのホームページなどでの情報発信に活用できないか。(県や福井市は対応する予定である。) また、今回除雪できる時間をいち早く区に伝える仕組みを構築するとしているが、内容は。
- ・ 大雪の情報発信について、県は道路状況確認カメラを52カ所増やし計179カ所で運用し「雪みち情報ネットふくい」で発信する。坂井市では、このカメラが何台、どこに設置され、どのように発信されるのか。
- ・ 除雪委託業者の地域割除雪が終わった後、他地域で遅れているところへ応援できるよう、除雪業者の応援体制を整えられないか。(福井市はグループ化を検討している。)
- ・ 今回、他自治体や県内の比較的雪の少なかった地域からの除雪車の応援は大変ありがたかった。大雪災害時における他自治体との応援体制について、どう考えているのか。
- ・ 大雪では夜間の除雪だけでなく、昼間の除雪の必要性を感じた。業者の確保や車の渋滞などの課題もあるが、県も昼間の除雪を重要施策に取り入れている。坂井市の対応は。
- ・ 今回の大雪では、各地区におけるマンパワーや小型除雪機、フォークリフト、トラクターなどの協力や活用が大いに役立った。小型除雪機等には市から補助されたが、マンパワーや住民自らが業者に依頼した場合の経費の補助の検討はできないか。
- ・ えち鉄において、圧雪となりやすい踏切の除雪対応と融雪装置のない踏切は市内に何カ所あり、今後の融雪への対応はどうなっているのか。
- ・ 県によると救急出動件数が、今回の大雪で大幅に増えている。嶺北消防管内において、緊急車両の出動については乗車員の増員や除雪状況の確認など、どのように対応し、今後の課題は何か。
- ・ 今回ほど道路融雪の必要性を実感したことはない。重要な市道幹線の融雪装置の整備について考えるべきではないか。また、市内の融雪が完備している道路の市民への周知を図り、車のスタックや渋滞の解消につなげられないか。
- ・ 融雪装置の点検は毎年行っているが、実際の降雪時に目づまりなどで水が出ない所や地下水不足で全く効果のない所もあった。ポンプ、井戸、装置の再確認と再整備の必要があると思うがどうか。
- ・ 気象庁が警報を出すレベルの大雪や立ち往生が懸念される高速道路や国道の区間で、全ての車のタイヤチェーン装着を義務付ける方針を国土交通省が示した。市内では北陸自動車道、国道8号が想定されるが、どの程度の降雪でどの区間が対象となるのか。また、市民等への周知や広報、指導などはどうするのか。

12 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団）

- (1) 市長という地位や公平な立場から、西川氏の後援会長をやめてはどうか
 - ・現職の首長が知事選や国会議員などの選挙運動をすることについて、どのように考えているか。
 - ・市長という地位があるのだから、個人的な選挙運動ではないと考えるが、いかがか。
 - ・市長という地位や公平な立場から、西川氏の後援会長をやめてはどうか。
- (2) 処遇改善と正規採用で調理師不足に対応すべき
 - ・現実にどこの現場で調理師が不足していると認識しているか。
 - ・現在の時給はいくらで、その金額は妥当だと考えるか。
 - ・調理師不足が深刻でありながら、民営化などは自治体の判断に任せられているのに、国からの通達をあげたり、市の職員適正化を理由にして正規採用をしないのはいいのか。
 - ・処遇改善と正規採用をすべき。
- (3) 国の基準に従い、障がい者雇用に取り組むこと
 - ・現在の障がい者雇用の状況と今年度の雇用は何人か。
 - ・国の基準（法定雇用率に基づき）では、市の雇用は何人になるのか。
 - ・国の基準（法定雇用率に基づき）で障がい者雇用を積極的にすべき。

13 永井 純一 議員（公明党）

- (1) 防災・減災対策について
 - ・災害による被害を最小限に抑える取り組みとして、タイムラインがある。さまざまな災害のタイムライン策定の状況を伺う。
 - ・さらに、住民一人ひとりが災害時に自ら取るべき行動を時系列にまとめた「マイ・タイムライン」の普及に取り組んではと思うがいかがか。
 - ・坂井市において観光産業は重要である。インバウンドを含め、観光客誘致に取り組んでいるが、観光の危機管理は重要である。
 - ①地域防災計画に観光旅行者に対する避難場所・避難経路などの計画が定められているか。
 - ②地域防災計画に外国人観光客への情報伝達に関する事項が整備されているか。
 - 1) 災害情報の多言語化
 - 2) 外国人観光客に対する避難所の運営など。
 - ③災害時におけるホテル協会や旅館組合との協定はできているのか。
 - ・防災対策の推進、地域の防災対策の強化のため、防災士や防災スペシャリストの養成が大事と思う。特に地域での人材活用を図るべきと思うが、活用面での対策を伺う。
 - ・市において、学校の普通教室へのエアコン設置が行われ、大変有難いと思う。設置後の光熱費やメンテナンスなどのランニングコストも心配だが、国で2019年度より普通交付税での措置を検討しているとのことである。今後、特別教室への設置も加速してもらえたらと思う。さらに、避難所となる体育館へのエアコン設置を図るべきと思う。総務省所管の「緊急防災・減災事業債」を活用し、体育館へのエア

コン設置に積極的な取り組みを図ってもらいたいと思うが、いかがか。

- ・防災・減災対策、あるいは福祉の面からの切口などから、市民と意思疎通を図りながら、住民力、地域力を引き出すような取り組みを行い、素晴らしい坂井市へと引っ張ってもらいたいと思うが、いかがか。

14 田中 千賀子 議員（政和会）

（1）農業・漁業振興について

- ・埋もれた海産物の商品化について。
- ・土産品としての商品開発について。
- ・栄養士、管理栄養士が不足する避難初期は、食事が偏りがちで栄養バランスを欠き、二次災害（健康被害）を引き起こすこともある。避難所生活が長期化した時に、防災備蓄缶として、三国で獲れた魚と坂井丘陵地で採れた野菜をマッチングさせた非常食は大切と思うがどうか。

15 三宅 小百合 議員（政友会）

（1）公共施設のトイレについて

- ・本庁舎整備を進めていくうえで、今の時代に適応したトイレを整備すべきだと考えるが、見解は。
- ・市内の公共施設や教育施設のトイレの状況はどうか。
- ・LGBTの方にも配慮した公共トイレの設置はどのようになっているか。

16 松本 朗 議員（日本共産党議員団）

（1）漁業法改定で、三国の漁業はどうなるか

- ・「漁業法改正」に市長は反対すべきでないのか。
- ・魚価の安定対策のための市としての具体策は。
- ・農業にはある、新規漁業就業者への支援策をとるべき。

（2）ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン（案）に対する提案

- ・4章に「具体的取り組みの進め方」を加え、「本ビジョンの具体的取り組みを進めるにあたって、以下の点について留意する 1）参加自治体の自主性を尊重する 2）公平公正の原則を遵守する 3）住民への説明責任を果たす 4）参加自治体間の相互連携にも努める」を追加すること。
- ・参加事業のうち、坂井市の財政負担が生じ得るものは何か。また負担額の想定額はどの程度か。
- ・坂井市が提案して、盛り込まれなかった事業は何か。またその提案内容は。
- ・坂井市が参加する事業で坂井市としてのデメリットは何か。

（3）生活保護行政 利用者の立場から見直しを

- ・土地、家屋、車などを保有しているものは、保護を利用できないのか。
- ・生命保険はすべて解約しなければ、保護されないのか。
- ・ホームページでは、保護できない理由が中心に記述されている。生活保護のしおり

を掲載して、保護制度を利用した場合の利用者の権利を明らかにすること。

- ・生活保護のしおりは、かつて指摘し、一部改善されたが、利用者の義務を強調し、利用の権利をあいまいにしてはいないか。改善されるべき。

17 辻 人志 議員（政友会）

（1）未来ある漁業振興策を求める

- ・三国港におけるここ数年の漁獲量の現状と本年の見通しは。
- ・漁業の担い手を確保するための漁業就業支援策は。
- ・漁業者の経営安定や水産物の安定供給のため、今後どのような施策が必要と考えるか。
- ・地元の漁協や漁業者に漁業権を優先的に割り当てる漁業法の規定を廃止する水産改革関連法案の成立が地元漁業に及ぼす影響をどのように考えるか。

（2）通学時における荷物の軽減を

- ・通学時における「ランドセルやリュックの重さ」について、市内小中学校の現状はどのようになっているか。
- ・坂井市の小中学校では、教科書などを学校に置いて帰る、いわゆる「置き勉」を認めているのか。
- ・通学時の持ち物負担の軽減に向け、教育委員会ではどのような取り組みを行っているのか。

18 川端 精治 議員（志政会）

（1）街路樹維持管理について

- ・市が管理する街路樹の路線数および街路樹の本数は。
- ・街路樹について、どのような計画で維持管理されているのか。また、それにかかる費用は。
- ・街路樹の定期的な管理、街路樹を市民と育むことを目的とした「坂井市街路樹維持管理マニュアル」を策定し、長期的なビジョンで取り組んでいくべきと考えるが所見は。